



<仲間分け D君>

身の回りのものが、その用途や性格で「くぐられ」といくと、ものごとのとらえ方や生活のし方が変わります。
 「くくる」ためには、最初に「同じ⇔違う」の気付きが必要ですが、外見を手がかりに「同じ⇔違う」が分かる時期（1歳半～）から、用途や性格といった内にあるもので「同じ⇔違う」をとらえるステージ（3歳～）へのあいだには、生活・あそびの豊かさと、他者の行為を参照できる力が必要です。その次には、「くぐり」と「くぐり」の共通性をみだし、準備や段取りのように、2つの行為をひとつの「くぐり」にする課題が待っています。D君は、「包丁とハサミ」（切るもの）や、「雨とおひさま」（天気）の仲間分けができるようになって、/（お勉強の）ツギハ、コウエン//アシタハ、パパト（あそぶ）/など、見通しのある時のくぐりもはじまりました。

10月活動のようす



フロア活動



ハロウィン



虫のおはか

ことばルームに＜こどもキッチン＞を頂きました。こどもたちにとって、なじみの深いままごとが本物そっくりのキッチンです。屋台風に飾るとお店屋さんになれるとあって、大好きな物を作って出す（あげる）ということが人気。制作して下さったしゅちゃんパパ、素敵なキッチン、みんなよろこんでます。



屋外活動



最近のS君、めっきり促しに対して、まず/イヤ!/これまで通じてきた「どっちにする?」の選択手段も今や効能なく…/イヤ/「じゃあ先生がしていい?」と尋ねると、/イヤ/と自分でするそぶり
いよいよ、/イヤ/と/(自分でできる!)/の「我が意」を発揮したい第一反抗期のかまえ充分
そしてこの日は助けを払いのけ、背中にリック、両手にバッグで…しかしバスまでの距離を運び切れず、でも放棄せずに、落とす前に/(持ってえ)/とヘルプしたのはさすがでした。

